

多職種連携で支える地域医療

—地域連携薬局による心不全患者への支援

処方提案に役立てる基礎薬学を 活用した医薬品へのアプローチ

座長
埼玉県薬剤師会常務理事
池田里江子
埼玉県薬剤師会副会長
畑中典子

この分科会についてはアカデミックディテリングという考え方とフォーミュラリという考え方を中心に薬剤師ならではの処方提案の方法を考える。

アカデミックディテリング(AD)は薬物療法の決定の質を改善し、不必要な支出を削減するための有用な方法と報告されている。また、フォーミュラリの目的は地域医療における標準的な薬物治療の推進にあり地域医療において有効性と安全性が担保され、ひいては経済性が優れている薬物治療の実施を言う。

「モノ」から「ヒト」へと転換が求められている中、薬剤師としての処方

提案、処方設計は大切な職能であると考え。特にADは有機化学、生物化学、医療薬学と大学で学んできた学問を臨床に生かすそのすべを学ぶ。

医師と薬剤師の処方の視点の違いはどこにあるか、化学構造式や薬理作用の違い、代謝酵素の違い、製剤の違いなど、その基礎薬学的特性からと、従来の考え方である患者の疾患リスク因子や腎・肝機能の状況や併用薬などを考慮に入れることでさらに患者リスク予想が可能であり、そこに薬剤師だからこそその視点を持つことができると考える。さらに、フォーミュラリの経済的な視点も含ませることでさらなる経済効果も提案できると考える。

この分科会の意味は処方提案のあり方を考え薬剤師のあらたな職能のあり方を提案できる分科会と考えている。

(池田里江子)

座長
日本薬剤師会常務理事
村杉紀明
埼玉県薬剤師会副会長
畑中典子

超高齢社会を迎えている我が国において、心不全患者数は120万人を超え、心不全入院患者数は年に30万件以上といわれている。心不全は急性増悪を繰り返すことによりADL/QOLの低下を来し、その患者を支える家族の負担も大きい。そのような中、24年診調剤報酬改定において調剤後薬剤管理指導料2が新設された。この背景にあるのは、病院薬剤師から確度の高い情報が提供される臨床的価値と、再入院の約半数にも上ると言われる患者の課題(疾患やセルフケアの理解度、等)に薬局薬剤師が寄り添いフォローアップすることで大きな効果が出ることへの期待であろう。

本分科会では、基調講演として東京医科歯科大学総合診療科の石田岳史氏から、多職種協働で心不全患者を支える価値について地域連携パスの運用事例等を紹介いただくと共に、地域の薬剤師への期待を講演いただく。

続く3講演の1講演目は厚生労働省医薬局総務課の小川雄大氏から、地域包括ケアシステムを機能させるために必要とされる薬剤師の対人業務について、医療計画における5疾病に係る事例や対応ガイドライン等の役立つ情報を、2講演目は病院薬剤師であるさいたま市民医療センター薬剤科の中村眞梨氏から、病院が提供する心不全治療退院情報提供書や薬局が活用する心不全フォローアップシートなどの実際に運用してきたツールの紹介と共に今後の課題等について、3講演目は薬局薬剤師であるつなぐ薬局の鈴木邦彦氏から、多職種連携を含む地域医療を担う薬剤師の役割を実際の心不全患者へのアプローチ等について講演いただく。どの講演も明日の業務に生かせる内容、目の前の患者や家族、地域を変えることができる内容ばかりで興味深い。

最後のパネルディスカッションでは、心不全患者にかかる情報連携を行う上でのポイントや地域連携の目指す姿、フォローアップやアセスメントのポイントなどについて参加者と理解を深める機会としたい。

(村杉紀明)

今後の感染症対策にかかわる 薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会常務理事
橋場元
埼玉県薬剤師会理事
山内大輔

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、抗菌薬の開発や公衆衛生の進歩によってコントロールされてきたかに見えた人類と感染症との戦いが、今後も続くことを知らしめた。

日本では、これまでの感染症対策方針を大きく転換し、7月2日の閣議で

「新型インフルエンザ等感染症対策政府行動計画」が決定された。閣議決定された新行動計画では、まず「新型コロナや関連法改正で明らかになった課題を踏まえ、様々な感染症による危機に対応できる社会の実現を目指す」と明記した上で、「平時からの備えを強化する」としている。

具体的には、国や全国の関係自治体が「平時から実効性のある訓練を実施し、不断の点検・改善を行うべき」としている。地方自治体に対しては、感染症発生時の関係機関との協定締結

や、実際に発生した場合の医療・検査体制の早急な確立を求めると共に、日頃からの協力体制やネットワークの構築の重要性も指摘している。

また、感染症については、新興感染症だけが現代社会の問題ではなく、世界中で抗菌薬が薬効を示さない耐性菌群が急激に増大している状況への対策、すなわちAMR対策が急務となっており、ワンヘルスアプローチの考えのもと、さらに対策を推進していく必要がある。日本においても2023年に改訂された「薬剤耐性対策アクションプラン2023-2027」を軸に多岐にわたるAMR対策が実施されている。

本分科会では、新興感染症対策における薬剤師の重要性や、都道府県知事との医療措置協定を通じ、薬剤師が地

域における保健・医療体制の一翼をどのように担うことができるかについてご講演いただく。また、第8次地域保健医療計画における感染症予防計画がどのようなものであるかについても具体的に講演いただく。

AMR対策については、薬剤師を含む多職種のAMR対策チームがどのように連携し、抗菌薬の使用を管理・監視し、適正化しているか、病院および薬局においてそれぞれの具体的な取り組みについてご講演いただく。

各演者のご講演により、感染症対策における薬剤師の役割をより深くご理解いただくと共に、現場での実践を推進するための一助となれば幸いです。

(橋場元)

乾燥肌の
治療薬

ビーソフテン[®]

保湿

抗炎症

血行促進

ヘパリン
類似物質
配合

保湿力を高める

スーッと浸透する

広範囲に塗りやすい

スプレー

販売名:ビーソフテンスプレー
内容量:100g [第2類医薬品]



塗りやすい泡タイプ

泡スプレー

販売名:ビーソフテン泡スプレー
内容量:100g [第2類医薬品]



クリーム

販売名:ビーソフテンクリーム
内容量:100g [第2類医薬品]



ローション

販売名:ビーソフテンαローション
内容量:50g [第2類医薬品]



帝國製薬グループ
テイコクファルマケア株式会社

http://www.teikoku-pc.co.jp/

〒769-2695 香川県東かがわ市三本松567番地
TEL / 0879-25-7771 FAX / 0879-24-1611

